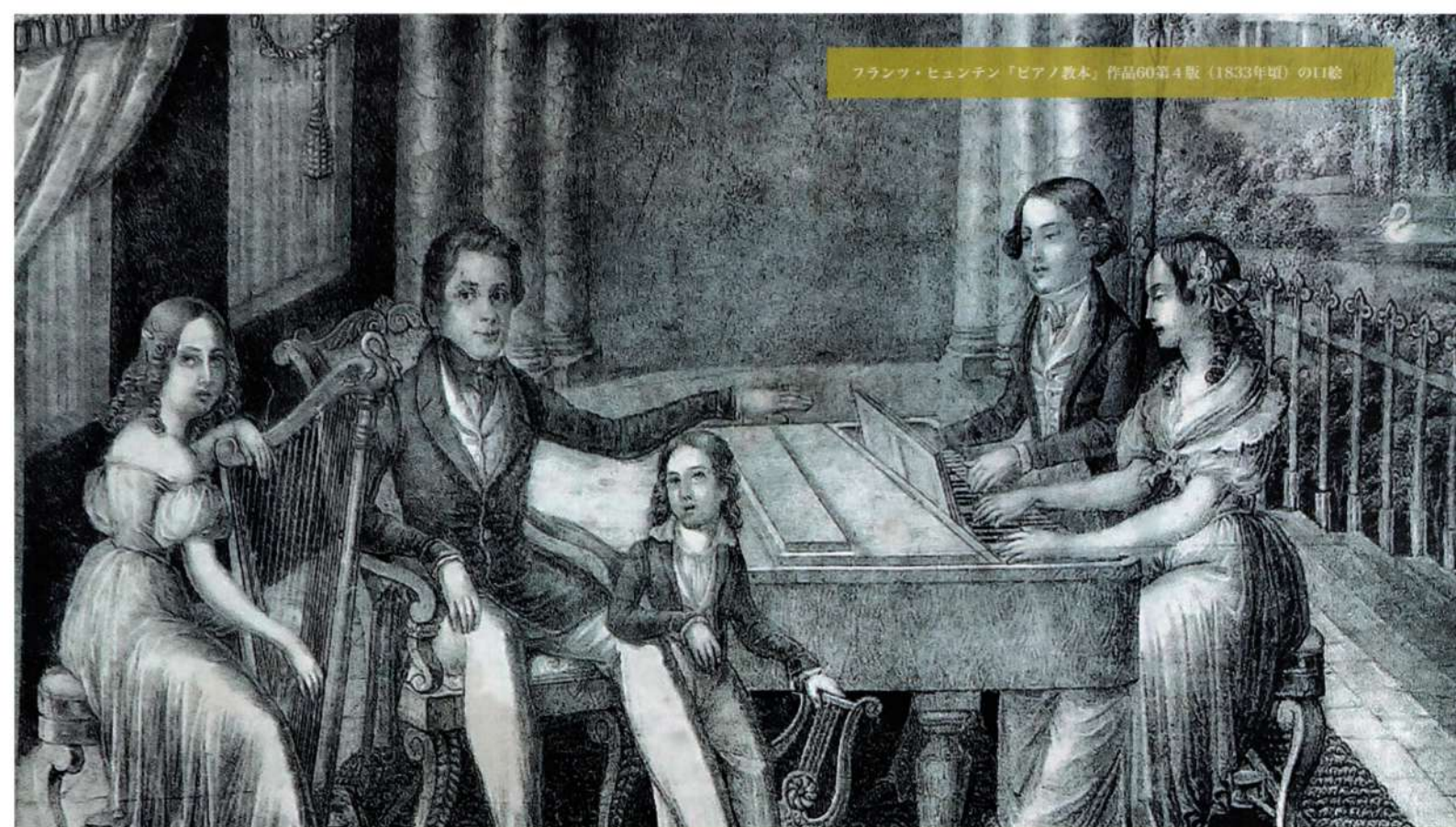




2025年12月29日(月) 銀座ヤマハ 6階サロン 東京メトロ「銀座駅」A3出口 徒歩5分
9時30分開場 16時00分終演 全席自由 一般3,000円 学生2,000円

講演① (10時00分～12時00分)

筒井はる香「19 世紀前半のウィーンにおけるピアノ演奏実践——装飾音、ペダリング」

ピアノ演奏において、ペダリングを含むアーティキュレーションは重要かつ困難な問題の一つではないでしょうか。19 世紀前半と現代とでは楽器の特色も演奏空間も大きく異なるため、「作曲家の指示をどこまで守るべきか？」という問いが生まれるためです。本講演では、19 世紀前半のウィーン式およびイギリス式ピアノの特性（アクション、響きのメカニズム）を解説し、当時の文献に基づいた実践的な演奏習慣を探ります。主なテーマは、ペダリングと装飾音に関連する問題です。当時の演奏実践を知ることで、楽譜に記された／記されていない作曲家の真の意図を読み解き、現代のピアノ演奏における表現の可能性を広げることを目指します。

実践ワークショップ (13時00分～14時00分)

筒井先生とピアニストが対話しながら、19 世紀演奏習慣をモダンピアノに応用方法する方法を探究します。

講演と実践ワークショップ (14時00分～16時00分)

上田泰史「19 世紀前半のフランスにおける声楽とピアノの演奏様式：

テンポ・ルバート、装飾法、ポルタメント」

ソプラノ歌手の小林瑞花さんをゲストにお招きし、メンバーのピアニストとともに、19 世紀前半にパリで出版されたピアノ教本、声楽教本、20 世紀初頭の演奏録音等を手掛かりとした声楽とピアノの演奏様式の間関係を探究します。

主宰：上田 泰史 - 秦 はるひ

▶お問合せ・ご予約 parisharu2006@gmail.com

▶公式サイト <https://atelier-h.art/>

ATELIER
ART SALON
アトリエアッシュ・アートサロン Vol.8



筒井 はる香

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了後、ロータリー財団国際奨学生としてウィーン国立音楽大学に留学。現在、同志社女子大学准教授。著書に『フォルテピアノ——19世紀ウィーンの製作者と音楽家たち』（アルテスパブリッシング）がある。研究テーマは、フォルテピアノ製作文化史、演奏実践史など。**楽器の特色が作曲の本質的な部分に影響を及ぼしていたのではないかという観点から、作曲家がどのような楽器を使って作品の構想を練っていたかに関心があります。**

著書「フォルテピアノ 19世紀のウィーンの制作者と音楽家たち」(ARTES)



上田 泰史

京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。専門はフランスにおけるピアノ教育史。東京藝術大学音楽学部楽理科卒業後、同大学大学院音楽研究科にてパリ国立音楽院のピアノ教育（1841～1889）に関する研究で博士号を取得。その後、ソルボンヌ大学でパリ国立音楽院ピアノ科教授ジョゼフ・ツィメルマン（1785～1853）研究でも博士号を取得。著書に『「チェルニー30番」の秘密——練習曲は進化する』（春秋社）、『パリのサロンと音楽家たち——19世紀の社交界への招待』（カワイ出版）、訳書に『評伝シャルル＝ヴァランタン・アルカン——ピアノの錬金術師』。日本音楽学会、地中海学会会員、ピティナ音楽研究所上級研究室長。



小林 瑞花

東京藝術大学声楽科ソプラノ専攻および同大学大学院修士課程を修了。現在、同大学大学院博士後期課程に在籍し、イタリア近代歌曲を研究している。在学中に、長野羊奈子賞および毛利準賞を受賞。文部科学省トビタテジャパン第6期奨学生に日本代表として選出され、イタリアミラノに留学。国内外でベートーヴェン《第九》ソプラノソロ、オペラ公演等に出演の他、声楽・合唱指導、CM・映画・ゲーム音楽の劇伴、テレビ・ラジオ出演、モデル活動、Webメディア連載など幅広く活動している。国立音楽大学附属高等学校声楽科非常勤講師。

サロンメンバー

増田達斗 黒岩航紀 齋藤一也 ロー磨秀 小菅綾 鈴木隆太郎 中平優香 小林えりか 小山田桃
中田雄一郎 伊藤順一 高橋ドレミ 井後優弥 竹田悠一郎 京谷光真

ATELIER H